

虹くじら

全国でも数少ない最新検査機器を備えた
「逆流性食道炎
診断・治療センター」

フォトルポルタージュ

よるのちぶねびょういん

【大好評連載】ミシュラン掲載店から定番まで
細マッチョ軍団が案内する

千船病院近辺「粉もんマップ」

●二大連載●

大崎 洋さん「くじら人」と会いに行く！

樋口 喜英 千船病院 副院長

ゆでたまご嶋田先生の
キン肉コラム「千船生まれ！」

虹くじら

contents

- 02 千船病院広報誌「虹くじら」について
- 03 全国でも数少ない最新検査機器を備えた
「逆流性食道炎 診断・治療センター」
繊細な外科手術「噴門形成術」、精密検査「24時間pHインピーダンスモニタリング」
などで新たな国民病を迎え撃つ
- 07 ちぶね〜ぜ 遺伝カウンセリング外来
遺伝診療に関する適切な情報を提供し、患者さん一人ひとりに寄り添いたい!
- 08 フォトルポルタージュ 写真家・奥田 真也が密着
よるのちぶねびょういん
- 12 【大好評連載】
テーマは「医療」「地域」「エンタメ」
大崎さん「くじら人」と会いに行く!
第3回 樋口 喜英 社会医療法人愛仁会 千船病院 副院長
- 15 ちぶね〜ぜ 院内保育所「ひよっこ保育園」
「次の日もひよっこ保育園に行きたい」と思ってもらえる場所にします!
- 17 千船病院スタッフが夢中になっているモノ・コトを紹介
これが私の「推し活」
- 18 【話題の連載】Column
ゆでたまご嶋田先生のキン肉コラム
「千船生まれ!」
- 19 Column
千船病院では「ストリートメディカル」実践中!
- 20 好評につき今号から「ページ増」しました!!
ミシュラン掲載店から定番まで細マッチョ軍団が案内する
粉もんマップ
- 22 Column 「くじらのつぶやき」 中田 真衣
- 23 ・編集委員から一言
・千船病院までの行き方

全国でも数少ない最新検査機器を備えた

「逆流性食道炎 診断・治療センター」



繊細な外科手術「噴門形成術」、精密検査「24時間pHインピーダンス
モニタリング」などで新たな国民病を迎え撃つ

取材・文 田崎 健太 写真 奥田 真也

写真右・北浜 誠一、左・阪口 博哉

千船病院広報誌 「虹くじら」について

千船病院の始まりは、日本の高度成長期、1950年代後半に遡ります。当時、大阪府から兵庫県にかけての海沿いは工場地帯として発展していました。工場のほとんどは中小企業。1958年3月17日、そうした労働者の方々に適正な医療の機会を与えたいと考えた医師たちが、「阿部診療所」を開業しました。阿部とは診療所にアルバイトとして勤務する医師の名前をとったものでした。この時点では医療法人としての申請も通っていない、見切り発車のような状態だったといえます。とにかく困っている人を救いたい、という思いが先走っていたのです。住所は、大阪市西淀川区佃町3丁目、阪神電車の千船駅前でした。

58年11月に医療法人愛仁会が設立され、翌59年1月に医療法人愛仁会千船診療所と名称変更。66年5月、千船病院へと発展しました。

2017年からは現在の場所である、阪神電車福駅前新病院として移転。現在、病床数308床、21診療科を有する急性期総合病院となっています。

草創期、そして高度医療を提供する今も変わらないのは、地域の方々に最高の医療を提供しようという強い意思、困った患者さんがいれば、可能な限り受け入れるという姿勢です。

千船病院では年間100件以上の母体搬送を受け入れており、年間分娩数は2024年度で2474件。この数字は大阪府内で最多です。この中には〈妊婦健診を1度も受けずに分娩、または入院に至った〉という未受診妊婦、約30人が含まれます。正確な統計はないものの、日本で最も未受診妊婦を引き受けている医療機関の1つであることは間違いありません。社会的に問題を抱えている、家族に頼れない人たちにも可能な限り寄り添いたいというのが千船病院の方針なのです。

病院のある西淀川区は、クジラのような形をしています。おおよそある人々を受け入れる存在になる。そんな思いから千船病院の広報誌に「虹くじら」という名前をつけました。

10人に1人——これが逆流性食道炎の患者数である。食道に炎症が見られないまでも胸焼けなどの症状で悩んでいる胃食道逆流症はその倍はいるという。食生活の変化により、逆流性食道炎の患者は増える傾向にある。今や国民病といつていいこの病気に困っている人のために、千船病院は『逆流性食道炎 診断・治療センター』を立ち上げた。



北浜が見つめる手術台

加齢の影響もある。
「横隔膜の筋力は年齢と共に弱くなる。また、糖尿病の患者さんは筋力が落ちやすく、その影響で横隔膜の力も弱まりやすい。すると横隔膜の穴から胃が飛び出してくる。食道裂孔ヘルニアです」
生まれつき横隔膜脚が薄く、緩みやすいという方もいらっしゃるのです、すべてが過食や生活習慣のせいではないですと付け加える。

胃を食道に巻き付ける外科手術

逆流性食道炎の第1の対処法は内服薬である。
「胃薬は酸を弱めますが、二重の門番のように逆流そのものを止める力はない。逆流そのものを解決するには、解剖学的異常を治すしかない。つまり食道と胃のつなぎ目の締めをよくなる外科手術です」
特に2つ目の門番——横隔膜脚が弱ってしまったことが明らかな場合は、北浜が得意とする腹腔鏡手術だ。

腹腔鏡手術では、へその近くに穴を開け、トロッカーと呼ばれる筒状の器具を挿入し、そこからカメラを入れる。カメラでお腹の中を観察しながら、穴を開けて、同様にトロッカーを挿入。そこからマジックハンドのような鉗子を入れて手術を行う。
「お腹の中にガスを入れて膨らませ、ドーム状にして内臓を見られるようにします。そして、鉗子や、切ると同時に止血もで

きる。医療用のハイテックはさみ”を使って、胃と食道を周りの膜から丁寧にはがしていく。迷走神経という胃や胆嚢につながっている重要な神経を傷つけないように、胃の膨らんだ部分を、首にマフラーを巻くよう食道の下の端にふわっと巻き付ける」
噴門形成術と呼ばれる手術だ。胃の上部である噴門部を食道の下部に巻き付けることで、下部食道括約筋を強化する。

北浜はアメリカから帰国後、2016年に千船病院で減量・糖尿病外科を立ち上げ、並行して、逆流性食道炎の治療を行っていた。しかし、薬物治療、外科手術に加えて、内視鏡治療と連携しなければ、逆流性食道炎の患者をきちんと診ることはできないとも思っていた。

2019年のある日、神戸で行われた研究会で、逆流性食道炎の手術について講演を行なった。講演後、1人の内科医から質問を受けた。巻き付けた部分に、将来、胃がんができたらどうするのですか、と。北浜は「(がんが)できたとしても確認できる問題ない」と返した。これが神戸大学医学部附属病院の消化器内科に所属していた医師——阪口博哉との出会いだった。

兵庫県粟粟市で生まれた阪口が消化器内科を選んだのは、内視鏡に強く惹かれたからだ。
内視鏡とは体内にカメラを挿入して行う治療、検査を指す。北浜たち外科医が行う腹腔鏡手術も内視鏡に含まれる。阪口たちの消化器内科では、身体に穴を開けず、口

咳が止まらない。喘息を疑い、アレルギー検査を受けたが、異常はみられない。内視鏡で胃や食道を調べたがやはり問題は見つからない。漢方薬を処方されたが効果はなく、抗不安薬を処方される。これで良くならなければ、次は精神科に行ったほうがいいと医師から言われた——。

こんなふうに関り切った表情の患者が千船病院の逆流性食道炎 診断・治療センターの北浜 誠一のところに来たことがある。
「検査してみると咳の原因は胃液の逆流でした。手術をすると咳はピタッと止まりました」
北浜によると逆流性食道炎の有病率は約10パーセント、胸焼けなどの自覚症状がある胃食道逆流症(GERD)の潜在的患者は倍以上だという。
我々が咀嚼した食べ物、喉の下に位置する上部食道括約筋を通して、食道に入る。食道は直径約2〜3センチ、厚さ約4ミリ、長さ25センチほどの管状の臓器だ。食道はぜん動と呼ばれる筋肉の収縮で食べ物を下に送る。下部食道括約筋、横隔膜の穴を通して胃の中に入る。

我々の身体には「二重の門番」があると北浜は表現する。
「1つ目の門番は下部食道括約筋。ふだんはしっかり閉じていて、食べ物や飲み込んだときだけ開きます。2つ目は、横隔膜脚」という筋肉で、食道裂孔のまわりを支え、括約筋の補助をしています」
胃食道逆流症とは、この門番の力が弱ま

り、胃の内容物が戻ってしまう状態だ。胃酸があたり口の中がすっぱくなる。胸やけなどの症状がある。胃食道逆流症のうち、食道に炎症が起きているのが、逆流性食道炎である。

「原因は様々です。肥満、過食、加齢、体質などです」
北浜は兵庫県西宮市で生まれ、京都大学医学部に進んだ。もともとはがん研究の道に進むつもりだった。しかし、実習先で知り合った医師が患者に献身的に接する姿に感銘を受けて臨床医となることにした。亀田総合病院で腹腔鏡手術の経験を積み、横須賀米海軍病院で臨床を行う免許を取得したあと、アメリカに渡る。腹腔鏡手術の技術を磨くためだった。そこで出会ったのが、減量手術と逆流性食道炎の外科手術だった。

肥満と逆流性食道炎は密接な関係があると北浜は言う。
「肥満の方は、腹腔内圧が高くなり、胃が圧迫されるので逆流が起きやすい」
腹腔内圧とは、腹腔——腹部の胃などの内臓が収まっている空間——内部の圧力を指す。特に内臓脂肪型肥満では、腹部に蓄積した脂肪が腹腔を圧迫する。

「過食により胃が大きく膨らむと胃内圧が高まり、逆流がおこりやすくなる。これが長時間続くと、逆流防止の門番の働きが弱まり、胃の一部が胸の方へずれて滑り込んでしまうことがある。下部食道括約筋の締め付けが弱くなってしまいうんです」



阪口は、北浜が探していた最後の“ピース”だった。

ちぶね〜ぜ

遺伝カウンセリング外来

「不安や悩みを抱えている人はたくさんいます。遺伝カウンセリング外来では、まず患者さん一人ひとりの背景に寄り添

「遺伝カウンセリング」という言葉を加えたのだという。

「不安や悩みを抱えている人はたくさんいます。遺伝カウンセリング外来では、まず患者さん一人ひとりの背景に寄り添

遺伝診療に関する適切な情報を提供し、患者さん一人ひとりに寄り添いたい！



高解像度食道内圧測定器

「不安や悩みを抱えている人はたくさんいます。遺伝カウンセリング外来では、まず患者さん一人ひとりの背景に寄り添

もしくは肛門からカメラなどの器具を入れることを指す。

「神戸大学（医学部附属病院）は食道アカラシアの内視鏡治療の症例が多い施設でした。食道アカラシアの知識をベースに逆流性食道炎の内視鏡治療も行なっていました」

食道アカラシアとは、下部食道括約筋が何らかの原因で動かなくなることで、「10万人に3人程度の希少疾患です。アカラシアは筋肉が締まりすぎて食べ物が詰まってしまう疾患、逆流性食道炎は筋肉が緩んで胃酸が逆流する疾患と考えてください」

国外での内視鏡指導の際、肥満患者に対する内視鏡による減量手術や逆流性食道炎に対する治療を知った。同様の治療を日本でも導入できないかと調べていると、千船病院の減量・糖尿病外科を見つけたのだ。そこでは北浜が日本でトップクラスの症例を積み上げていた。

北浜にとっても消化器内科医である阪口は探していたピースだった。2人は意気投合し、阪口は2024年に千船病院に入職した。翌2025年、2人を中心として逆流性食道炎 診断・治療センターが立ち上がったのだ。

入り口は内科の阪口である。「大切なのは問診です。患者さんの仕事、生活、食事の内容と時間帯、脂質の多い食

「腹筋トレーニング」「糖質制限ダイエット」も原因となる

「大切なのは問診です。患者さんの仕事、生活、食事の内容と時間帯、脂質の多い食

生活か。便秘の有無も大切です。消化管はつながっているの、下が滞っていると、その上の胃に物が溜まりやすくなり、腹腔内圧が上がることがあります」

逆流性食道炎を引き起こす意外な要因もあるという。

「過度な腹筋トレーニング、パワーリフティングのような運動も腹腔内圧を高める場合があります。また糖質制限ダイエットは、食事内容が高脂質になりがち。高脂質食は食道と胃のつなぎ目を緩め、消化管の動きを抑えるため、逆流の原因になります」

胃がんの原因とされるピロリ菌除去とも関係がある。

「ピロリ菌がいると胃酸が出にくいんです。除去したことで胃酸の分泌が多くなり、逆流しやすくなったという人も増えています」

逆流性食道炎を含めた胃食道逆流症では、症状の強さと実際の逆流の程度が一致しないことがしばしばだ。逆流の程度を正確に診断できる検査が「24時間PHインピーダンスモニタリング」である。

鼻から、先端に（酸性、アルカリ性の度合いである）PHを測定するセンサーがついた細い柔らかいチューブを鼻から食道へそっと入れる。センサーを下部食道括約筋の約5センチ上になるように調節。データは腰につけた小型レコーダーに送られ、逆流の回数、持続時間などを24時間記録する。

千船病院の逆流性食道炎 診断・治療センターの特徴は「下咽頭インピーダンスモニタリング」という特殊なカテーテルを備

鼻から、先端に（酸性、アルカリ性の度合いである）PHを測定するセンサーがついた細い柔らかいチューブを鼻から食道へそっと入れる。センサーを下部食道括約筋の約5センチ上になるように調節。データは腰につけた小型レコーダーに送られ、逆流の回数、持続時間などを24時間記録する。

千船病院の逆流性食道炎 診断・治療センターの特徴は「下咽頭インピーダンスモニタリング」という特殊なカテーテルを備

えていることだ。

「下咽頭にもセンサーを配置。咽頭側のセンサーによって、胃内容物が食道を通りどこまで上がってきているかを調べることができます。自覚症状があった場合には患者さんにボタンを押してもらうことで、データと連動ができる」(阪口)

下咽頭インピーダンスモニタリングにより、胃頭で紹介したような、胃液の逆流が原因で咳が止まらなくなる慢性咳嗽や喘息などの違和感を症状とする咽喉頭逆流症(LPRD)などの耳鼻咽喉科、呼吸器領域の正確な診断が可能となった。

「逆流性食道炎の患者さんは夜中、横になつているときに咳が出やすい。一方、咽喉頭逆流症の患者さんは、起き上がるときに咳が出ることが多い。体位が変わり腹腔内圧が高くなり、胃液が上方向に押し出される。霧状となった胃液が咽頭まで届き、咳が出る。咽喉頭逆流症も内視鏡検査では判別が難しいことがあります」(北浜)

下咽頭インピーダンスモニタリングを採

用している病院は限られている。北浜によると、機器から得られたデータを読み込み、診断する医師の存在が重要なのだという。

「阪口先生が千船病院に来るタイミングで高解像度食道内圧測定器も導入されました。これらの機器により、治療の前段階である診断の精度が格段に上がりました。加えて、逆流性食道炎の知見を持つ、内視鏡室のスタッフ、管理栄養士、放射線技師が1つのチームになっています」

薬、内視鏡治療、そして外科手術のすべてを千船病院で完結できるようになったという。ようやく北浜が目指した体制が整ったことになる。

阪口はこう言う。

「まだまだ逆流性食道炎の知識を持っている人は少ないです。患者さんはこちらろんですが、医療従事者でさえ多くありません。まずは啓蒙活動から始めます」

千船病院の逆流性食道炎 診断・治療センターの挑戦は端緒にすぎない。

「まだまだ逆流性食道炎の知識を持っている人は少ないです。患者さんはこちらろんですが、医療従事者でさえ多くありません。まずは啓蒙活動から始めます」

千船病院の逆流性食道炎 診断・治療センターの挑戦は端緒にすぎない。



この時刻は、昼間に働く日勤の看護師から、夜勤への引き継ぎの時間でもある。この日、初めて夜勤を担当するという看護師がいた。彼女はやや緊張した面持ちで、ベテランの看護師の指示を聞いている。

しばらくすると晩ご飯の準備が始まった。千船病院が1日に用意するのは約200食。廊下にトレイの積んだ食事を積んだカートが現れる。

食事が終わった頃、2階の救急センターに救急車が到着した。

運ばれて来たのは、おじいさん。付き添っていたおばあさんによると、意識がもうろうとして起きられなくなったので、心配になったのだという。ほくが『虹くじら』の写真家で、夜の千船病院を撮影しているのだと挨拶すると「うちの人、どんでん振ってください」とおじいさんを指差した。

「私、この鄭先生にお世話になっているの」

おばあさんは関節センター、整形外科医の鄭克真先生の患者さんだったのだ。

道路を挟んだところに、院内保育園の『ひよっこ保育園』がある。この日のお泊まりは3人。1人の子どもに「お父さん、お母さんと一緒になくて寂しくない？」と尋ねると、「全然」と大きく首を振った。

「わたしのお母さんはお医者さんなんだよ。今日もここで働いているの」と自慢そうに胸を張る。

夜の千船病院は夕方、16時から始まる。勤務が一段落した医師、看護師たちが三々五々、会議室に集まる。勉強会の始まりだ。日々進歩する医療のため、勉強は欠かせない。彼ら、彼女たちは疲れた顔も見せず、講師の話聞き、メモを取る。

フォトボルタージュ
写真家・奥田 真也が密着

よるのちぶねびょういん

写真・文 奥田 真也





保育士が横に座る。子どもたちが眠ったあと、0歳児は5分ごと、1歳児以上は10分ごとに胸の動き、体にふれて発熱等の確認、鼻の前に手をかざして呼吸しているか確かめる。もう1人の保育士は書類記入などの事務作業。朝まで2人で、子どもたちの面倒を見るのだ。

タクシーで1階の夜間受付に来る人もいる。気がついた警備員がすぐに飛び出す。様子を聞きとり、連絡。車椅子を押して、看護師に引き継いでもらう。病院で働いているのは医療関係者だけではない。みんな、千船病院の仲間なのだ。

病院の横を走る、阪神電車も日付が変わった頃、最終電車となる。遅くまで残っていた人たちがみんな帰った。あたりはしんとして、時折、自動車の排気音が風に乘ってくるだけ。

ただ、5階の産科病棟は違う。「痛いっ」という叫び声が聞こえる。助産師が励ます声も混った。その後、赤ちゃんの泣き声。お母さんは、先ほどまでの苦しみが嘘のように、にこにこ顔。この夜、千船病院では8人の赤ちゃんが生まれることになった。

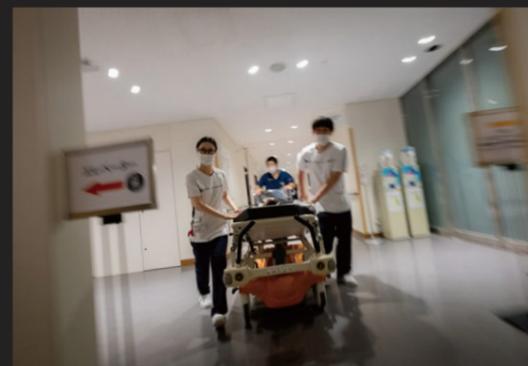
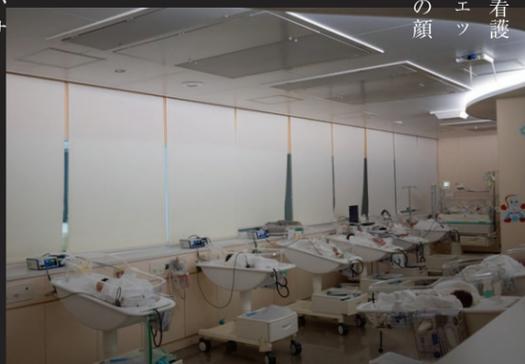
隣のNICU(新生児集中治療室)は昼間から薄暗い。小さなカプセルの中で、赤ちゃんたちがやすやすと眠っている。看護師はモニターで赤ちゃんのデータをチェック、時折、ベッドを回って、赤ちゃんの顔を覗き込む。

そんな間も、2階の救急センターに、サイレンを鳴らした救急車が到着する。薬を出さなければならぬ患者さんのために、薬剤師も泊まり込んでいる。真つ暗な病院を一晚に2回、警備員が巡回する。コツコツコツ。ぼくたちの靴音だけしか聞こえない。大きな懐中電灯を持って、廊下、非常階段を見回る。

朝4時、夜勤担当の看護科長が全フロアの責任者に、問題がないことを確認。これを千船病院では「ラウンド」と呼んでいる。夜明けが近い。

阪神電車が動き出した。電車の中には眠そうな顔の人たち。福駅にばらばらと人の姿が見えるようになった。

さあ、朝の千船病院のはじまりだ。



奥田真也(おくだしんや)

1980年、兵庫県姫路市生まれ。大阪藝術大学写真学科卒業後、ウェディング写真、広告写真を中心に活動。特に女性の優しさを引き出すことに定評がある。虹くじらオフィシャルカメラマンとして、誌面ほぼ全ての写真を担当している。
Instagram @ily_photo_design

テーマは「医療」「地域」「エンタメ」
大崎さん「くじら人」と会いに行く!

大崎 洋さんが千船病院関係者に会うこの連載も3回目。今回の対談相手は、この「虹くじら」立ち上げのメンバーであり、泌尿器科医の樋口 喜英副院長。話題は、「頻尿」という身近でありながらも深刻な悩みから、人生観、そして医療の未来まで。日常の不調をきっかけに浮かび上がるのは、“人を診る”という医療の本質でした。



第3回 樋口 喜英 社会医療法人愛仁会 千船病院 副院長

構成 虹くじら編集部 写真 奥田 真也

大崎 先日、「あの頃に戻りたい。そう思える今も人は幸せ」(飛鳥新社)という本を出したんですが、最終章で島田 紳助君と対談することになりました。30分ぐらい話すつもりで、紳ちゃんのマンションに行ったら、4時間半ぐらい喋ってました(笑)。

樋口 島田 紳助さん! 中学生ぐらいのとき、漫才ブームでした。特に、太平サブロー・シローさんやオール阪神・巨人さんの漫才が大好きでした。

大崎 (吉本興業)入社3年目、東京事務所へ異動になってすぐ漫才ブームが起きたんです。紳助竜介、明石家さんま君、ザ・ぼんち、サブロー・シローと一緒に下っ端のマネージャーとして走り回っていました。紳ちゃんとはよくが吉本興業に入ったときの付き合いです。今回、久しぶりに会ったんですが、盛り上がったのは病気のことで、頻尿が治らへんのやけどどうや、って聞いたから、実はよくもそうやって言うんです。よくが73(歳)で、紳ちゃんはちよっと下の69(歳)。樋口先生の専門は泌尿器器ですよ。

樋口 ええ。年をとると頻尿でお困りの方は増えますね。

大崎 5、6年前から、夜中に目が覚めてトイレに行くと、またバタンと倒れて、90分後ぐらいにまた目が覚めてトイレに行くの連続。だから夜に熟睡できない。そのうち、昼間も頻尿がひどくなっていった。**樋口** 成人の夜間頻尿には多くの要因があるのですが、1つは加齢により抗利尿ホル

モンの分泌が減り夜間の尿量が増加すること。2つ目は前立腺肥大症や過活動膀胱など膀胱容量が小さくなってしまふこと。3つ目は睡眠障害。大崎さんはお酒は飲まれますか?

大崎 こう見えて、一切飲めません。飲めそうって言われるんですが(笑)。

樋口 血圧はいかがですか?

大崎 血圧は高くて、薬を処方していただいています。サウナに入る前にベットボトルで水分補給はしていますが、これ、あんまり良くないですかね?

樋口 (腕ぐみして)長いサウナや高温の入浴はやめたほうがいいかもしれません。高血圧が続くと身体中の血管が硬くなり、そのうち腎臓のろ過機能が落ちます。ご存じのように腎臓の主たる役割は老廃物や毒素を尿として排出すること。血圧のお薬の中には利尿作用があるものが含まれています。血圧を下げるために水分を尿として排出させるんですが、お薬の服用時間が遅いと夜間頻尿の原因になります。また、サウナに入ると身体から水分が失われます。その後、補給されるとしても夜間の尿量増加すなわち夜間頻尿の原因になります。生活習慣が夜間頻尿につながることもありますね。

大崎 日本でも有数の専門医という医師に診てもらったり、漢方の名医を紹介されて漢方薬をもらったりしたんですが、良くない。

樋口 診察していないのではっきりしたことは言えないんですが、大崎さんの頻尿は複合的な原因で、1つの薬を飲んだから良くなる感じではなさそうです。生活習慣の改善を主として行動療法も効果があるかもしれません。

AIを患者のアシスタントとして使うことはできるか。

大崎 生活習慣を変えろということですよ。ね? ほかの場合、仕事柄会食が多い。自分で設定する会食ならば、食べるものをコントロールできるんですが、そうではない場合がほとんど。まあ、それは言い訳なんですけれど(笑)。言い訳ついでに言わせてもらおうと、お医者さんからいろんなことを言われるんですが、医学的に難しい単語がたくさん出て来るようになります。今、樋口先生がおっしゃったようにいろんな要素が関わってくる。睡眠障害が原因だとすれば、泌尿器科じゃなくりますよ。ほくのちっほけな経験になります。お医者さんは自分の専門外になると困った顔をされる。

樋口 おっしゃる通りです。近年の医療のキーワードの1つは「個別化医療」ですが、実際はそれぞれの科が細分化、専門化

して、他の診療科のことを知らない場合が多い。実際、症状の改善には診療科を跨いで知識や経験が必要になってきます。

大崎 さらに、患者さんには、家族構成がこうで、日頃、こんなものを食べてという生活、こんなふう生きてきたという歴史がありますよ。全人的という言葉か、生活習慣ひっくり返さないと、AI(人口知能)の助けを借りられないかと思うことがあるんです。例えば、よくに信頼している3人の先生がいるとします。1人の先生は「大崎さん、この手術したほうがいいよ」と言う。2人目は「この薬で治しましょう」、そして3人目は「何もしなくていい」。

よくにそこまでの知識、理解力がない。よくが喋ったことを全て入力、生活スタイル、信条、考え方を踏まえて、アドバイスしてくれるんじゃないかって思っているんです。

樋口 AIは画像診断を始め医療現場でどんどん使われています。ただ、患者さんの立ち振る舞いを観察し、意思や感情などの情報を得るのはまだ難しい面がある。手術はなおさら困難かと思っていました。最近の著しい進歩を考えると、経験の蓄積により有能なナビゲーターになる日も近いと感じるようになりました。患者さんだけでなく医療者のアシスタントになる日はもうすぐですよ。

大崎 そもそもなんです、樋口先生はなぜお医者さんになったんですか? お父さまがお医者さんだったとか?
樋口 いや、全く違います。ほくの家は

ちぶね〜ぜ

植田 宣子園長

院内保育所「ひよっこ保育園」



千船病院の駐車場の向かいにある『ひよっこ保育園』。病院の職員向けに設置された院内保育施設だ。院内保育園では、利用する医療従事者の勤務形態に合わせて、24時間365日体制で子どもを預かり保育を行う。

植田宣子さんはこの園の園長先生である。「私の学生時代を知る人は、園長先生なんてできるの？って心配しています」というのも、保育士になったのも自発的というより親に薦められたからだった。「ピアノが少し得意だったので、幼稚園の先生か保育士の資格でもとりなさいって。本当に何も考えていない学生だったんです」

植田さんは2000年4月、愛仁会に入職。その年の秋に開設予定の認可保育園『なかよし保育園』で働くため、半年間、グループ内である高槻病院の院内保育施設で新人研修を受けた。

「保育士になったら、自分は大勢の子どもの中で、手遊びしたりピアノを弾いたり、季節の制作や様々な行事に向かって保育をするんだと思いついていました。ところが、院内保育園では預かる子どもは数名。1対1で関わることになり、想像していた保育と全然違って戸惑いました」

研修後、入職した『なかよし保育園』は、園児が140名。描いていたイメージと近かったはずなのに、子どもたちは全くついてきてくれなかったという。植田さんは自分に保育の力が足りないと思

り、教科書を出して一から勉強をし直した。助けになったのは、その時の園長と主任の言葉だった。

「もう少し広い目でいろんな考えや、やり方があるのを見て、自分がいいなと思うことを真似して実践していきなさいと。それで、先輩の言葉かけから遊びへの誘導など全部を真似してやってみました」

集団での活動では、子どもたちに社会性や協調性が身につくように。自由に好きな遊びを楽しむ時間では、子どもの興味や関心を見守りながら遊びを深め、一人ひとりの個性や主体性を大事にする――そんな保育のあり方もたくさん先輩保育士や園児との関わりから学んでいた。

そんななか、保護者から、妊娠中から出産まで千船病院にお世話になったと感謝の思いを聞く機会があった。

「法人内での病院と保育園のつながりに感動しました。その頃から改めて、病院という職場の就労に合わせお子さんをお預かりし、保育する『院内保育』に興味を持ちました」

そして今春『ひよっこ保育園』に異動してきた植田さん。今回は園長という皆を束ねる立場だ。

「まずは現状を把握して、ひよっこ保育園の業務を覚えます。そして、利用されるお子さんが『次もひよっこで遊びたい』と思ってもらえるような保育を職員みんなで話し合っ取り組んでいきます！」

「次の日もひよっこ保育園に行きたい」と思ってもらえる場所にします！

(大阪府)茨木(市)に本社がある工場をやっていました。祖父が工場を始めて、父親の時代は自動車用ディスクブレーキキャリパーのゴムパッキングなど、今は兄が継いで新素材を活かした食品機械や医薬プラントのバルブなどの部材を開発から行なっています。それとは違う、自分で興味を持った世界が手術治療でした。そこで、医学部に進みました。

関西ならではの 「コミュニティの中心となる 病院ができるはず」

大崎 印象に残っている患者さんについてらっしゃいますか？

樋口 ぼくが研修医のとき担当していた方で、膀胱がんが見つかって調べてみたら肺にも転移していたという患者さんがいました。すでに別の病気で片方の肺をとって、1つしか肺が残っていません。がんが転移しているのに、呼吸をするのも苦しい。患者さんに鎮痛薬や鎮静薬を使い眠ってもらいますが、効果が切れると苦しうて起きてしまう。苦しさを和らげてあげたいがぼくには何もできなかった。できることと言えば、夜遅くまでつきつきりであるぐらいです。もう終わらせてくれって何回も言われて……自分の無力さ

を感じ、がん治療への向き合い方を深く考えるきっかけになりました。

大崎 そうい人間的なお話を伺うと、医療が身近に感じます。(大阪・関西)万博の仕事をするようになって、大阪にいたことが多くなりました。少し具合が悪くなったとき、大阪の病院で診てもらったことがあったんです。そうしたら患者さんがお医者さんや看護師さんと、丁々発止のやりとりというか、関西弁でフラットに話している。この安心感なんやろなって思ったんです。関西ならばコミュニティの中心となる病院ができるような気がするんです。

樋口 おっしゃっていることはなんとなく分かります。病気の時にだけ関わる場所ではなく、普段使いするような場所の要素もあるのではないかと、地域連携の仕事をしなが最近思うようになりました。

大崎 お医者さんって膨大な知識と経験を積み重ねて命を預かる仕事をしている。忙しいのは分かります。その中で、地域の方々、老若男女、子どもからじいちゃんばあちゃんまでいる、コミュニティの一部として、なんでもない話をする。ああ、お医者さんに親身になって聞いてもらったと安心しますよね。お医者さんにとっても発見があると思うんです。

樋口 千船病院がいいなあと思うのは、患者さんのための活動であったり、職場環境をより良くするための活動で、こういうことをしたいって言ったら、みんなもやりましょかというふうになる。動きが

速い。この「虹くじら」も当時の事務部長と看護部長そして吉井院長と一緒に、こんなできたら面白いんじゃないかっていう話から始まりました。

大崎 ところで、医師の方って日々、緊張感の中で仕事をされていますよね。次の人生を考えることってありますか？

樋口 (少し考えて) 人生のいろいろな場面面で様々な人や物事に救われたり影響を受けて、今の自分が形作られているのを何かあるごとに感じるんです。ゆつくりしたいなあと思いつつ、いつも行き着く思いはただ1つ。医療だけでなく社会のためにいかに自分を使いきり、いかに生を味わうか、いかに死ぬか。ちよつと格好良すぎますかね(笑)。

大崎 ぼくは笑いがあるのが好きなのででもなかったですし、何度も辞めようと思ったけど、結局吉本(興業)に46年いました。そのあと、(大阪・関西)万博をやりませんでした誘われて、しばらく断っていたんですけど、熱心に言われたのでやることにした。全部受け身なんです。自分がそもそも何したかったんかなくて70過ぎてから考えている(笑)。万博終わったあと、誰かのためになんかできたらええなって思っているところなんです。変な答えですみません。

樋口 いえいえ、いろいろ興味深いお話ができて貴重な時間でした。ありがとうございます。これからも千船病院をよろしくお願ひします！

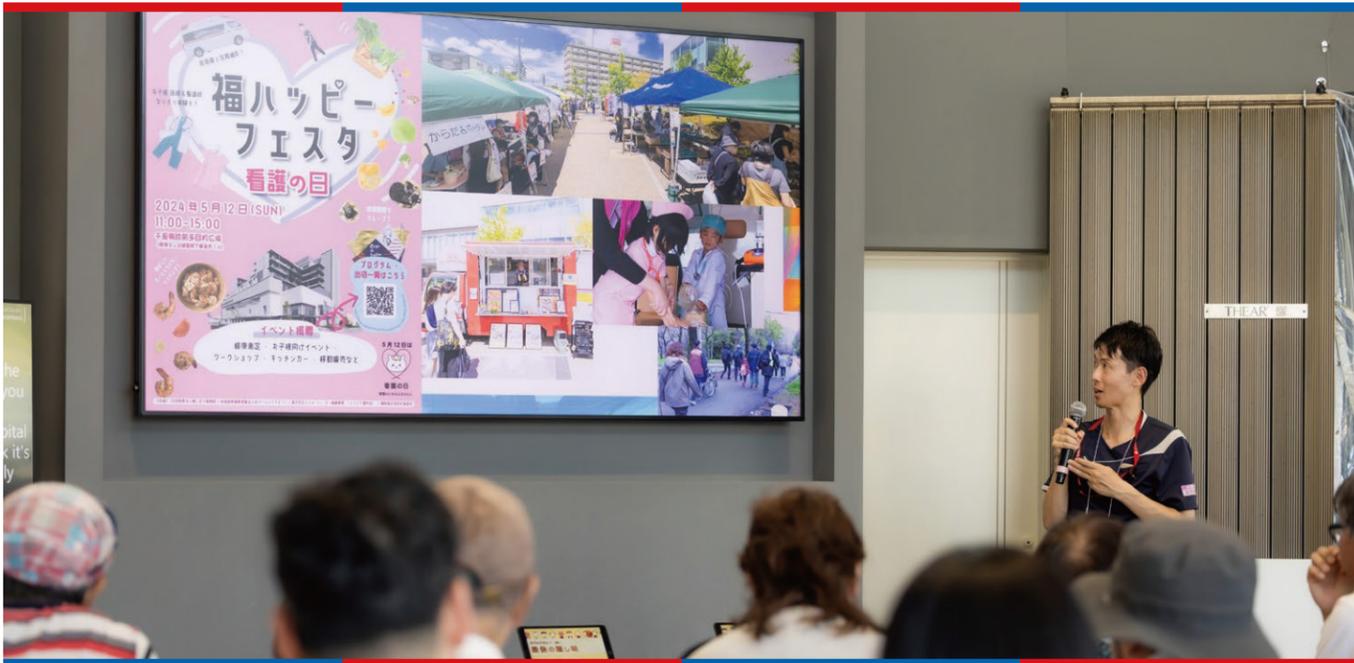


樋口喜英(ひぐちよしひで)

1968年、大阪府生まれ。兵庫医科大学卒業後、兵庫医科大学病院泌尿器科教室に入局。宝塚市立病院を経て、2002年に社会医療法人愛仁会千船病院泌尿器科で3年間勤務。2005年に兵庫医科大学に戻り、2014年から再び千船病院泌尿器科に。2018年に副院長兼泌尿器科主任部長に就任。

大崎洋(おおさきひろし)

1978年、吉本興業株式会社に入社。多くのタレントのマネージャーを担当し、音楽・出版事業、スポーツマネジメント事業、デジタルコンテンツ事業、映画事業などの新規事業を立ち上げる。2009年に代表取締役社長、2019年には代表取締役会長に就任。2023年6月代表取締役会長を退任。2023年3月全広連日本宣伝賞・正力賞受賞。2023年5月大阪・関西万博催事検討会議共同座長に就任。また、公益社団法人「2025年日本国際博覧会協会」シニアアドバイザーも務める。現在、一般社団法人Eutheriaを設立し代表理事に就任。著書に「居場所」(サンマーク出版)「あの頃に戻りたい。そう思える今も人は幸せ」(飛鳥新社)。



大阪・関西万博 TEAM EXPO パビリオンに参加しました!

我々、千船病院は、2025年6月25日大阪夢洲で開催されている大阪・関西万博に参加してきました!

なぜ、大阪・関西万博に出展!?と思われるかもしれません。我々がこれまで取り組んできた試み——「健康と幸福が両立するまちづくり(イネープリングシティ)」の一環でした。健康だけの文脈では、残念ながら「健康無関心層」の心には届きません。大阪・関西万博という若者男女、障がい者、海外の方々など様々な方が訪れる場所に参加することが大切でした。

出展したのは、TEAM EXPOパビリオン。ここは、「未来への行動」を発表者と来場者が共有し「いのち輝く未来社会の実現」に向けた新たな「共創」を目的とした場。千船病院は健康情報の提供の他、アプリ配布を行いました。

まず1つ目は、東京藝術大学と共同作成した、「Nbackカレーアプリ」。

これは脳の機能の1つ、ワーキングメモリ(作業記憶)をゲーム化したもので、プレイヤーはカレー屋さんになり、お客さんが注文したいろいろな種類のカレーを正しく提供できるかを競います。お客さんが増

え、注文と違ったカレーを出すと点数が下がります。このアプリは認知機能と関連があることが論文で証明されており、実用化に向けて開発中です。

もう1つは、大阪・関西万博会場を歩いて「幸福」と「健康」を見つけてもらうアプリ「イネープリングシティウォークアプリ」。これは、happyやhealthyを感じた場所を写真に撮りSNS上で共有するアプリです。これにより、健康な場所や幸福な場所を意識しながら万博会場を歩くことができます。

さらに、虹くじら2023年春号で紹介した、ふくらはぎの太さを測ることで、加齢による筋力低下を知らせるメジャー型リーフレット「さるコベニア」も配布しました。

こうした取り組みに、「楽しい!」「おもしろい!」「ほしい!」「これなら家でやる!」という言葉がたくさんいただきました。我々がやってきたことは間違いではなかった、と嬉しく思い、休憩時間を忘れるほどでした。みなさまに幸福と健康を考えてもらうつもりだったのですが、私たちが一番楽しんでいました。同時に、双方向性が楽しい場を作るのに重要だと再認識したのです。

そして、大阪・関西万博に参加したもう1つの目的は、同じ思いをもっている方々との「共創」でした。我々のブースに顔を出された『大阪ヘルスケアパビリオン Nest for Reborn』の出展企業の方々と意見交換をしました。万博がきっかけでつながった関係やアイデアで、地域の方々、病院の人間も楽しめる企画を千船病院や西淀川区に展開していきます!



村田 尚寛 (むらた なおひろ) リハビリテーション科 科長

2009年、理学療法士免許取得し愛仁会リハビリテーション病院に入職。2014年しんあい病院を経て、2018年より千船病院リハビリテーション科に勤務。2022年より千船病院のより地域に根差した医療の展開に向けて、「ストリートメディカル」を提唱している横浜市立大学先端医学研究センター コミュニケーション・デザイン・センターへ出向。「ストリートメディカル」の概念と実装の仕組みを学びながら、千船病院・西淀川区に汎用できるよう奔走中。

ゆでたまご嶋田先生のキン肉コラム 「千船生まれ!」

第3回 柔術のある日常が戻ってきました!



前号のこのコラムで右膝の痛みがひどく、関節の骨を切る手術——「骨切り術」を受けたと書きました。そして2024年の秋、身体の中に埋め込んでいたプレートとボルトを取り出す手術を受けました。その後、膝は順調に回復し、日常生活では何の問題もなく過ごせています。とはいえ、以前と全く同じではないです。正座、あるいはあぐらをかいて、立ちどくとすると、どうしても一瞬遅れてしまう。これはもう治らないのかなと思っていました。

骨切り術を選択した大きな理由は、もう一度、柔術をやりたいたいからでした。普通に歩けるようになり、以前通っていた、高円寺のジムに顔を出しました。ぼくの柔術の師匠は、写真家としても有名な井賀 孝先生(もちろん黒帯!)。久しぶりですので、テクニクの練習から軽く始めるつもりでした。ところが、たまたまその日は、スパarringの時間でした。

柔術とは寝技中心の格闘技。試合では得点形式ですが、スパarringではどちらかが一本取るまで、つまり「極める」まで。背の高い人、低い人、体重のある人、ない人。様々な人と対戦することで経験値を積むのです。スパarringを見学していたら、井賀先生が「嶋田先生、入ります

か」と言っんです。ぼくは、そんな無理でしょと思いましたが、まあ、やってみようと思入ることにしました。すると、身体が覚えていたんでしょう、思った以上に動ける。何より驚いたのは、膝の違和感がないことでした。

柔術は「フジカル・チェス」と称されることがあります。ボードゲームのチェスと同じように、相手の考えを読み、二手三手先を考えて動く。相手の動きに合わせて、瞬時に動かかなければなりません。それが出来たのです。そこから週2回、ジムに通う生活になりました。そして、大会にも出場。試合前、ウォーミングアップでジャンプを繰り返したりするんですが、全く問題ありません。普段は、よっこいしょと言いながら立ち上がっているのになあと不思議でしうが、いいんです。

現在は手術前と同じ生活に戻っています。毎週月曜日は担当編集者たちと打合せをして、その週の原稿の大きな内容を決めます。火曜日はジムの日。水曜日からシナリオを書き始めます。

ご存じのように、「ゆでたまご」はぼくの幼馴染みである中井君との合同ペンネーム。ぼくがシナリオを書き、中井君が漫画として仕上げていく。こういう技にしてほしいと、シナリオ

の時点でぼくが絵を書くこともありません。

シナリオを書くのは自宅の地下にある仕事場です。音楽などはかけずに、ひたすらうんうん言いながら、シャープペンシルで話を書いていく。孤独な作業です。シナリオのめ切は木曜日。毎週、いい作品にしたいと頭を絞るので、木曜日の夜までかかります。乗っているときは早めに出ることもありますが、だいたい徹夜になります。

そして金曜日に中井君に原稿を送り、午後は担当編集と事務所で打合せ。その後、中井君の仕事場に行つて打合せが続きます。そして日曜日午前中はジムです。昼過ぎに終わって、練習仲間たちと飲みに行く。年齢も仕事も違う、気の置けない人たちとの話が楽しい。

振り返ってみると、80年代、ぼくたちは「キン肉マン」と「闘将!!拉麵男」(たまたかえ!!ラーメンマン)という2本の連載を持っていました。週刊連載は1本でもきついです。その上に月刊連載を45ページ。よくやったなと思うことがあります。編集者から、原稿でできましたかという催促の電話がかかってくるのが怖いので、黒電話を布団でくるんでいたのであります。さらに編集者が家まで来て、ピンポンを鳴らしたのですが、出なかった。「居留

嶋田 隆司 (しま たかし)

1960年10月28日、大阪府西淀川区生まれ。私立初芝高等学校卒。中井善則との合同ペンネーム「ゆでたまご」の原作担当。「キン肉マン」は嶋田が中井に出会う前から描いていたキャラクターが元になっている。緻密な設定を作り、後に読者の反応をたくみに取り入れたストーリーを創ると評価が高い。キャラクター原案のデザインも行っている。

守つても、電気のメーターが動いているので、いるのはわかっていすよ」と言われました。そこを火事場のクソ力で乗り切ってきたのは、ファンの方々が続いてくれたから。特にお子さんのファンの期待に応えたいという気持ちが強かったです。

以前は合併号などで読めない週があるとまた休みかよ?なんて言われました。そうしたファンの方々が大変な大きさになったのか、最近はSNSでぼくが怪我をしたとか書くけど、「先生、お身体は大丈夫ですか? 無理しないでください」に変わりました。週2回の柔術を取り入れながら、自分のペースでこれからも作品を作っていきたいと考えています。最近、キン肉マンドクターと10歳の娘が柔術を始めました。塾とか行くのは嫌々、なんて言っていたのに柔術は楽しいそうです。彼女と一緒に大会に出るまではこの生活続けます!!

〈大好評連載〉

ゆでたまご嶋田先生の「コラム」が読めるのは「野へ」だけ!

ミシュラン掲載店から定番まで
細マッチョ軍団が案内する

粉もん マッチョ

大阪といえば、やっぱり粉もん!
千船病院周辺にも、地域内外から愛される名店が多数。お好み焼きにたこ焼き、香ばしいソースの香りに誘われて、今日も筋肉マッチョなりハピリススタッフたちが街へ繰り出します!栄養バランス?炭水化物?食事にもこだわる筋肉マッチョなりハピリススタッフたちも、今日のご褒美の日!



取材・文 南ちひろ 河野優雅 写真 奥田真也

1つ食べれば忘れられない、海外からのリピーターも多数。お子さんや女性でも12個をべろりと完食!たこ焼きの中には上腕二頭筋のようにしなやかで旨みをギュッと閉じ込められたタコが! 食材、製法に加えて食器にまでこだわり抜かれたたこ焼き屋さんです。世界の美食家にも選ばれた味をぜひお試しください! (永尾)



大阪府大阪市淀川区十三東 2-3-10
最寄り駅: 十三駅
【営】月~金 11:30-15:00/16:30-20:00
生地がなくなり次第終了
【休】土・日・祝



01 大阪イギー

「たこ焼きが好きすぎて開店した」という大阪・淀川区の「大阪イギー」は、ミシュランガイド京都・大阪にも選ばれた本格派のたこ焼き店。店名は大阪文化を守りつつ、進化させたいという思いが込められています。国産黒毛和牛や北海道産タコ、小麦粉、熊本産ウルメやサバの出汁など素材には徹底的にこだわっており、メニューは「たこ焼き」と「すじ焼き」の2つのみ。6坪の小さな店内で、お客様との関わりを大切に営業しています。さらに、飲み物には関西の名ソムリエ・川原崎 義和さんがこの店のたこ焼きのためにセレクトしたワインも用意。アメリカへの出店も控えており、ますます注目を集めています。

今回紹介してくれるのは...



入退院支援センター 看護師
萩原 可奈子 (はぎはらかなこ) さん

患者さんやご家族と面談し、在宅療養に向けた支援や転院先の調整など、患者さんが退院後も安心して療養生活を送れるよう支援を行なっている。

これが私の『推し活』

oshikatsu

萩原 可奈子看護師の推しは、『フットサル』。3年前に始めて、現在は日本女子フットサルリーグに所属のSWHレディース西宮に在籍し、選手として活躍中だ。日本女子フットサルリーグは、女子フットサル界で日本の最高峰である。フットサルとは室内で行う5人制サッカーのこと。
しかし萩原さん曰く、「サッカーと同じなのは、ボールを足で扱うことぐらい。戦術も全然違って、そこがまた伸びしろあると思うちゃって」

ある。彼女がやっていたのはサッカーなのだ。時を少し戻そう——外遊びが大好きな萩原さんは、小4の時に兄と同じサッカークラブに入り、男子と一緒に練習をしていた。高校は強豪女子サッカー部のある大商学園高等学校、武庫川女子大学もサッカーを続けるために選んだ。
大学で体育の教員免許を取得していたのだが、それよりもサッカーを続けようと、埼玉のFC十文字VENTUS(現・大宮アルディージャVENTUS)に入り、スポンサー企業で働くことにした。ところがある日、

「もう無理。なんか動けへん、練習も行かれへん」
家族と離れた関東での生活やケガから復帰しても試合に出られないことが重なり、突然、糸が切れたように頑張れなくなってしまうのだ。サッカーがでなくなつた萩原さんは、会社を退職する。「ずっとサッカー中心の生活が当たり前で、狭い世界に生きてたな」と思いました。
自分自身と向き合い、考えついたのは看護師になること。
「母親が看護師やし、自分も何回も手術とかしたりして、看護師は身近な職業でした。それに私、人にもめっちゃ興味があるんです。それもあって看護学校で勉強しよう」と



病院勤務が終わると練習場に向かう。チーム一丸となって今年も連覇をねらっている。

萩原さんは看護学校を無事に卒業し千船病院に入職。最初は7階西病棟に配属された。実際の医療現場は緊張の連続だったという。それで気持ちを切り替えるために、誘われていたフットサルに行ってみたら、どハマりして現在に至るといわけだ。千船病院も萩原さんのフットサルと看護師の両立を応援している。
「推しのおかげで、仕事も頑張れています」
チームは昨年リーグ優勝。今年も連覇を目指している。
「見るのもやるのも楽しいので、体育館でも借りて職員が集まってやりたいです」
職員も健康第一 萩原さんの推しは、今後千船病院に広まるかもしれない。

千船病院 技術部
リハビリテーション科

副主任/作業療法士
友村 光太
ともむら・こうた

理学療法士
永尾 智哉
ながお・ともや

理学療法士
谷 優実
たに・ゆうみ



06 たこ松

たこ焼き店を始めたきっかけは、店主の父が祭りの屋台でたこ焼きを出店し、その手伝いをしていたこと。父のたこ焼きが一番美味しいと自信を持ち、絶対にうまくいくと思ったそうです。おすすめは定番のたこ焼きや粉もんに加え、週替わりメニューも大人気。特にこだわっているのは小麦粉とソース。店内はアットホームな雰囲気、親しみやすい店主の距離感も魅力の1つです。

大阪府大阪市西淀川区佃 2-33
最寄り駅：千船駅
【営】月・水～日 11:00-21:00
【休】火



02 金太郎



粉もん好きが高じて始めたお好み焼き店。力強い金太郎にちなんで店名を決めました。席数が多いため、開店当初はピーク時の注文に対応するのが大変だったとか。人気メニューはお好み焼き、やきそば、とん平焼き。出汁は毎朝仕込んで、ソースも独自のブレンドです。落ち着いた照明と仕切りのある店内で、おひとり様から宴会まで幅広く対応。地元・西淀川で愛される店を目指しています。

大阪府大阪市西淀川区福町 2-3-19
トリーエタカ 1F
最寄り駅：福駅
【営】月・水～土 11:30-14:00/17:00-22:00
日 11:30-22:00
【休】火



03 あいあい

当院からほど近い鉄板焼き店「あいあい」。職員もよく訪れているお店です。40年前に開業し、当初は経営の知識はなく苦労したそうですが、「お客様の笑顔がお店を頑張る力になる」と、お好み焼き店で働いていた経験を活かして地道にやってきました。開業時から使い込んだ鉄板で作る料理は、他のもので作るのとは全く味が違います。おすすめは、そんな鉄板で作る香ばしい焼きそばです！



千船病院前
【営】月～土 17:00- (L.O.20:30)
【休】日



08 広島



「本物の広島お好み焼きを大阪で！」という思いで開店。キャベツや麺にこだわり、本場広島で認められた店主自慢の味を提供しています。注文から出来上がりまでは30分、手間を惜しまず丁寧に調理された広島お好み焼きは待った時間も忘れる美味しさ！看板メニュー「広島スペシャル」や辛い物好きには必須のチリソースも人気。老若男女がくつろげる空間で、心と胃袋を満たす「駆け込み寺」的な存在です。

大阪府大阪市西淀川区大和田 4-8-28
最寄り駅：千船駅
【営】月・水～日・祝 11:00-22:00
【休】火



広島のソウルフードを西淀川で。中でも珍しいチリソース入りはガツンとくる辛さで、心と筋肉が熱く燃え上がり！辛さに慣れてくると野菜のシャキシャキ食感で気分爽快！刺激が足りないという皆様は辛さがクセになるチリソース入りをぜひお試しください！(谷)



07 山本屋



「お好み焼きで育った」と語る姉妹が経営するこのお店。店名は父の苗字から取ったもの。家族の絆を大切にしているんです。試行錯誤の末に完成したという「あきちゃん焼」と「べったん焼」が特におすすめで、トッピングには旨味抜群の油かすもオーダーできます。使用する食材はすべて国産！麺は山本屋オリジナルで、こだわりのソースを使用。我が家のようにくつろげる雰囲気も魅力です。

大阪府大阪市西淀川区姫島 5-7-5
最寄り駅：姫島駅
【営】水～土 11:30-14:00/17:00-22:00
日 11:30-14:00/17:00-20:00
【休】月・火



05 ふるさと



いまから46年前、飲食業が好きだったという店主が母と共に現在の場所で開業。店名である「ふるさと」には「何度でも帰ってきてもらえるように」という思いが込められています。今は奥様と二人三脚。ふっくら美しく焼き上げたお好み焼きや、ポン酢で味わうねぎ焼きが特におすすめ。駅近の好立地でありながら、開店当初から変わらぬ価格と、常連客の集う温かな雰囲気も魅力です。

大阪府大阪市西淀川区出来島 1-4-23
最寄り駅：出来島駅
【営】月・水～日 12:00-21:00
【休】火



04 ちくちく



地元の方や常連客が多いこのお店。開店当初はメニュー開発や料理の作り方に苦労したといいます。おすすめは『ほろよいセット』、1ドリンク・からあげ・たこ焼き6個・小鉢が付いて1,000円(税込)という超お得なメニュー。生地的配合や出汁にこだわったたこ焼きは飽きのこない味です。2階の座敷は自宅や祖母の家のようにくつろげる雰囲気、お店の1番の魅力はなんといっても安くても美味しいこと！

大阪府大阪市西淀川区福町 2-3-36
最寄り駅：福駅
【営】火～土 15:00-22:30(L.O. 22:00)
日 11:00-22:30(L.O. 22:00)
【休】月



虹くじら 編集委員から一言

千船病院広報誌『虹くじら』は、編集チームと病院内編集委員による会議から企画を生み出しました！



千船病院 看護部部長
成松 紗江

虹くじら04号から編集に参加しています。伝えたい思いがたくさんあり、今回も厳選されたオススメの内容になっています。普段見ることのできない千船病院の姿(裏側?)や病院で働くスタッフの姿を通して、千船病院が読者の方にとってより近い存在となれば嬉しく思います。



千船病院 看護部部長
武田 真紀

05号から編集委員として参加しています。先日、某病院の看護師より、「虹くじら」を見て地域との関わりや千船の職員がいきいきと働く様子がよく分かるとの感想をいただきました。05号でも職員の仕事に対する姿勢や考えが多くの方に伝われば嬉しいです。



千船病院 広報室
河野 優雅

創刊から携わってきた虹くじら。私事ですが、産育休を経て1年7か月ぶりに編集に参加させていただきました。取材というのは特別な時間で、その人が心に持つ大切な想いが引き出されていきます。そんな想いに、ぜひ触れていただけると嬉しいです。『虹くじら』を通じて出会うすべての方に感謝を込めて。

千船病院編集委員

樋口 喜英
越智 敏之
黒田 朋子
成松 紗江
武田 真紀
村田 尚寛
中田 真衣
南 ちひろ
河野 優雅

スーパーバイザー

結城 豊弘 (ANOSA)
編集長
田崎 健太 (カニジル)
編集
中原 由依子 (カニジル)
西村 隆平 (カニジル)
写真
奥田 真也
デザイン
三村 漢 (niwa no niwa)
大貫 茜 (niwa no niwa)



今号表紙イラスト

朝倉 弘平 (絵かき / Artist / Painter)
1983年宮城県仙台市生まれ。宮城野高校美術科油彩専攻、文化服装学院卒。2013年より、家族と共に鳥取県の大山に移住、アトリエを構える。
Instagram @asakura_kouhei
https://www.asakurakouhei.com

千船病院までの行き方

所在地

〒555-0034 大阪府大阪市西淀川区福町3丁目2番39号
TEL 06-6471-9541 (代表)

電車でお越しの方

阪神なんば線「福駅」下車 徒歩1分

バスでお越しの方

大阪市営バス 92号
福町行『大阪駅前』⇒『大野』

大阪市営バス 43号

西島車庫前行『大阪駅前』⇒『福町三丁目』



▼千船病院公式WEBサイト
<https://www.chibune-hsp.jp>



▼千船病院公式 Instagram
@chibune_hsp1958
毎週木曜日の「ハッピー木曜マルシェ」など、情報盛りだくさん。登録をお願いします！



編集委員コラム

「くじらのつぶやき」

第3回 地域連携部 地域医療科科長 中田 真衣 委員

はじめまして、千船病院 地域連携部 地域医療科で事務をしている中田 真衣と申します。

みなさんが病院と聞いてまず思い浮かべるのは、医師や看護師の姿かもしれません。我々の仕事である、医療事務とは、医療の現場を円滑に動かす縁の下の力持ちです。患者さまに安心と信頼をお届けできるように患者さまと医療職をつなぐ橋渡しの役割だと考えてください。

千船病院のような総合病院における医療事務の仕事は大きく分けて3つあります。

まず医療秘書業務。

受付や電話対応に加え、医師事務作業補助者として診療時のカルテ代行入力や書類の代行作成など事務サポート業務を担い、診療現場がスムーズに回るよう支える業務です。

2番目はレセプト請求業務(レセプトとは正式に診療報酬明細書のこと)で、診療内容に基づき作成する。

これは病院やクリニックでは、健康保険を使用して医療サービスを提供した際、費用の一部を患者さまの加入されている保険者(国民健康保険や協会けんぽ、健康保険組合など)に請求する業務です。ミスがあると病院の損失にもつながり、正確性と専門知識が求められる仕事です。そして3番目の会計業務は、主に患者さまからの診療費の計算・請

求・受け取りを行う業務で、医療費の正確な計算とスムーズな金銭処理が求められる責任ある仕事です。また、患者対応も含まれるため、事務処理能力と接遇力の両方が必要になります。

私は、大学生の就職活動の際に大学の就職課に相談しに行ったことがきっかけで、医療事務の仕事を知り、この千船病院を運営している愛仁会に入職しました。今年で18年になります。

私が現在担当しているのは、地域連携部の地域医療科です。

地域連携部は、看護師、社会福祉士、事務員が所属し、病院と地域のクリニックや病院をつなぐパイプ役として、患者さまが安心して医療生活を継続できるように多職種・機関と調整し連携します。

地域医療科では、地域のクリニックや病院から紹介いただく患者さまの電話やFAXでの予約調整や、窓口での患者さま対応、紹介状の返事(返書)の管理、医療機関向けの広報物の作成、クリニックへの訪問活動などを行なっています。

千船病院は地域医療支援病院として地域医療の一翼を担い、地域の皆さまと密に連携しています。私たちは、診療だけでなく地域全体の健康維持にも貢献していきます。

例えば、当院開催「ちぶね健康セミナー」。また地域と協同開催の「福ハッピーフェスタ」など地域イベント。こうしたイベントで健康に関する知識を広め、住民の方々が自ら健康管理を行えるようサポートしていきたく考えています。

何より重要なのは、患者さまにとって「身近で信頼できる存在」で地域の方々も安心して生活でき

るよう、これからも地域医療を大切にしていきます。そして医療従事者が一丸となって活気ある病院を目指すこと、質の高い医療サービスを提供することで、社会に貢献していきます。

この虹くじらには04号より携わらせていただき、2回目の参加となります。千船病院と皆さまをつなぐために当院の魅力あふれる職員や取り組みを発信しています。

今後も新たな発見やつながりをお届けできるよう努めてまいりますので、まずは虹くじらを楽しんでいただきたいです。そして、ぜひご意見・ご感想もお寄せください。





社会医療法人 愛仁会

千船病院